

バシェの音響彫刻プロジェクト

2020 年度活動報告

2020 年は 1970 年大阪万博から 50 周年というメモリアルイヤーにあたり、バシェの音響彫刻が 1 年かけて東京、神奈川、大阪、京都と大移動しながら、それを用いたコンサートやワークショップを伴う展示が開催される予定であった。芸資研バシェ・プロジェクトもそれぞれの展覧会に惜しみなく協力するつもりで予定を組んでいたが、コロナ禍により神奈川（川崎市岡本太郎美術館 4 月 24 日～7 月 12 日）でのコンサートやワークショップは中止、大阪（EXPO'70 パビリオン 8 月 25 日～9 月 13 日）での展覧会やコンサートも中止に追い込まれた。したがって「バシェ音響彫刻特別企画展」（11 月 7 日～12 月 20 日、会場／京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、主催／京都市立芸術大学、共催／東京藝術大学ファクトリーラボ、企画／本学芸資研バシェ音響彫刻プロジェクト、助成／2020 年度日本万国博覧会記念基金事業）の京都開催は我々バシェ関係者の悲願となり、ついに開催できたことは何よりの幸運だった。

バシェの音響彫刻は大型で金属部分が多いので、解体・搬送・組立の段取りをうまく組むことと、安全に作業するための人集めが必須となる。10 月 29 日に二手に分かれて、万博パビリオンと本学とでそれぞれ解体作業を行なった。万博の 2 基はその日のうちにギャラリー@KCUA へ搬入。遅れて 11 月 2 日朝、本学の 2 基と東京藝大の 1 基が搬入された。午後、一気に組立て作業を行い、夕刻にはギャラリーに 5 基の音響彫刻が並んだ。総勢 12 人の力の結集であった。

11 月 7 日のオープニング・コンサートを皮切りに、週末毎に 7 回のコンサート、3 回のワークショップほか、ギャラリートーク、オンライン国際シンポジウム…など、会期中はおそらく一般的なギャラリーでは見られない賑やかさだったに違いない。

11 月 21 日の「子どものためのサウンド・ワークショップ」は、その一部が本学の FD 研修会にもあてられた。

11 月 22 日の国際シンポジウムは、当初フランス、スペインから 2 名のバシェ研究者を招聘する予定であったが、新型コロナウイルスへつながる流れが確認できたことは、大変有意義であったと思う。

また、マスコミでも複数回にわたり取り上げられた。例えば朝日新聞（11 月 8 日朝刊）、京都新聞（11 月 20 日朝刊）、京都新聞デジタル版（11 月 30 日）、関西ラジオワイド（12 月 1 日）、NHK 総合テレビ「ニュース 630～京いちにち」（12 月 8 日）、朝日新聞デジタル版（12 月 12 日）などである。これらによってバシェの音響彫刻に興味を抱き、ギャラリー@KCUA へ足を運んだ人も少なからずいたことだろう（会期中の来館者数は、のべ 3128 人）。

来館者に最も人気の高かったのが、やはり自分で触れて音の出せるコーナーであった。本学の特別研究助成を受けて、この 2 年間でフランスのバシェ協会から取り寄せた 11 種類のパレット・ソノールと、2015 年本学での音響彫刻修復の際に修復者のマルティ・ルイツ氏と彫刻専攻の学生たちによって作られた 3 台のミニ音響彫刻「冬の花」である。不思議な形をしたオブジェから自分の手によって音が鳴った瞬間の、来館者の驚愕と感嘆の表情は、いつ見ても楽しい。新型コロナウイルス感染対策にもきめ細かな神経を使いながらの体験コーナー開設であったが、多くの人々がバシェ音響彫刻の造形と響をただ鑑賞

するだけでなく、音は空気の振動であることを体感し感動している様子にたくさん出会えたことは、まさに開催者冥利につきる。

また美術ギャラリーにも関わらず、来館者は美術家のみならず作曲家、演奏家、舞踊家、演出家、音響工学の研究者、医学療法士、万博研究者、特別支援学校の子どもたちや教員、障害者アートの企画者、学生、家族づれなど、様々な職種の、広い年齢層の老若男女が行き交い、文化と教育と社会の交差点でもあったことの意味は大きい。バシェの音響彫刻はそういう多種多様な人々を呼び寄せる魅力を持っていることを、改めて感じたバシェ展であった。

今後、この偉大なる芸術遺産をどのように保護し、どのような方法で後世に伝え、そして新しい創造活動に生かしていくかが大きな課題となっていくだろう。お祭りのように華やいだバシェ展を終えて、今再びスタート地点に立ち戻っていることを、私はひしひしと感じている。

岡田加津子（音楽学部教授）



11月7日「バシェ音響彫刻 特別企画展」開幕京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA



解体した音響彫刻の搬出



万博パビリオン（大阪）、東京藝大、本学から集まった4基のバシェ音響彫刻（もう一基はエントランスに展示）



左：黒川岳氏によるアーティスト・パフォーマンス

右：子どものためのサウンド・ワークショップ



体験コーナーで、パレット・ソノールを鳴らして楽しむ来館者